

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese

ローマで双子育児②

浅田 朋子

2020年に双子が小学校に入学してからというもの、コロナ禍のため個人面談や保護者会はオンラインで行われていた。

それがこの2022年から教育機関の規制は全て解除され、初めてクラス単位の対面での保護者会が行われることになった。

オンラインでの保護者会は気が進まず常に欠席していたので、「今年はさすがに参加しないとまずいだろう…」と感じ、参加することにした。でも一人で行くのは気が進まないの双子男児の母であるママ友のロシア人レーナちゃんと相談し、Aクラスに二人で参加し、Bクラスは夫に参加してもらうことにした。どちらの双子もクラスが分かれているのである。「私はレーナちゃんとAクラスに行くからBクラスに参加してね」と夫にいうと「えっ…」と顔を曇らせた。

イタリアの小学校は5学年制(6~10歳)で、双子の通うローマの公立小学校ではクラス替えはなく、先生も5年間ずっと同じである。担任と副担任が教科を分担する。双子のいる3年生はA・Bと2クラスあり、どちらも50代のベテランの女の先生である。

Bクラスの先生は私が「鬼」とあだ名をつけた、子供も保護者も恐れるスパルタ教育の先生である。保護者が自分のやり方に口を出すことを一切認めず、相談なんてできる雰囲気は一切ない。

入学当初、イタリア語のABCもわからない子供に何時間も詩を書き取り(dettato)させ、その厳しさに泣き出す子が続出し、親たちが「ちょっとや

りすぎでは…」と訴えたが、聞く耳持たず。しかし子供たちはどうにか乗り越え、鬼によって3年間みっちり訓練された今、楽々と課題をこなし、少々のことではへこたれない。

Bクラスの保護者代表のお母さんが鬼に負けず劣らず威圧感のある人で、このお母さんと先生による恐怖政治下で、Bクラスは常に統率が取れている。夫は特にこのクラス代表のお母さんが苦手で、「できれば喋りたくない10人」リストの中に入っているそうである。

Bクラスとは対照的に、Aクラスの担任の先生は優しく楽しい授業をし、生徒や保護者への配慮もよく、学校でも評判である。保護者からの質問や相談にもすぐに対応してくれる。完璧なクラスかと思いきや、生徒はわがままな子が多く、親も過保護で「モンスターペアレンツ」が何人もいる。ちょっとのことで「教育委員会にメールする」だの騒いでいる。

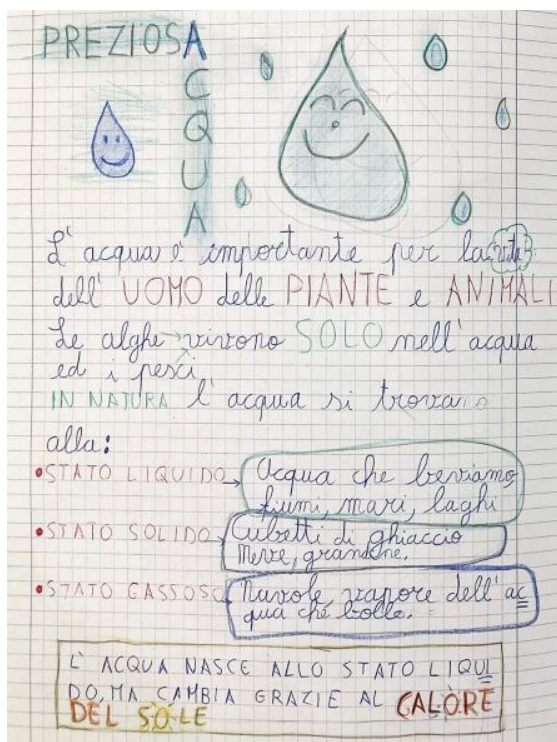
当日、夫とレーナちゃんとBクラスの教室を覗くと、保護者は大体半分くらいしかいない。「うん、わかる…。鬼を目の前に意見なんか言えるわけないし、参加する意味無いよね…」と私が言う。「ほんと、意味無いわあ～、ストレス溜まるだけ！」とレーナちゃんが笑った。夫は恨めしそうに私たちを見ると、とぼとぼと教室に入っていった。

しかし、鬼のいるBクラスを夫に押し付けたものの、Aクラスは保護者が曲者揃いなのでこちらの保護者会も安心はできない。

今年からイタリア語担当の副担任がベテランの

先生から若い新卒の女の先生に変わり、子供たちは若くてきれいな先生の楽しい授業に大フィーバーしていた。しかし、若い先生の言うことをあまり聞かない生徒がいるので、授業の進み具合は遅くなった。

「曲者」保護者は自分の子供が授業を妨害していることを棚に上げ、授業の進み具合が遅いことを新卒の先生の授業の構成が悪いからだと言いつ出し、「前の先生に戻してほしい」と無茶苦茶なことを言い出しているのです、保護者会は大波乱が予想された。



【Aクラスの理科（scienza）のノート】

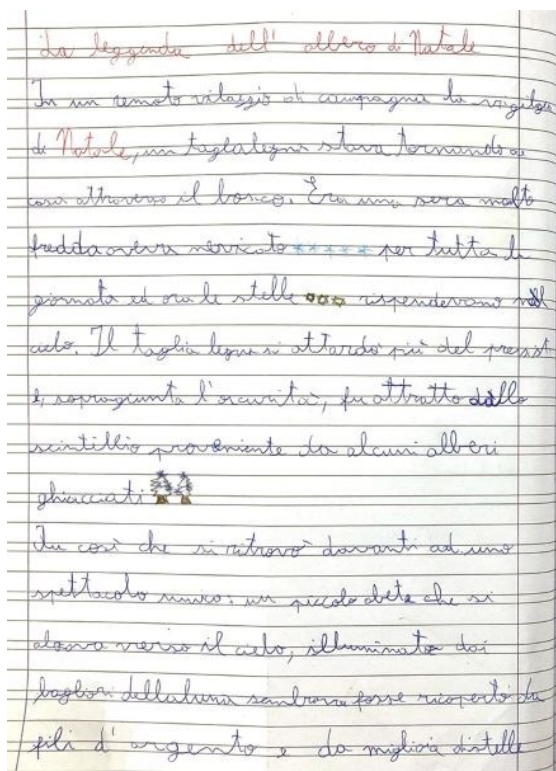
Aクラスの教室に入るとほぼ全員の保護者がいた。通常、担任の先生と副担任が参加するが、副担任の新卒の先生がいない。すぐに保護者の一人が「ラウラ先生はいないのですか？」と聞くと、担任が「ええ、今日は急に研修が入ったので欠席です」と言った。ラウラ先生に物申そうとしていた「曲者」保護者が、「それはちょっと残念ですね。ラウラ先生にもいろいろ相談したいことがあったんですけど！」と腹を立てた。きたきた…開始早々噛み付いてきた。レーナちゃんをチラッと見ると、肩をすくめ、もう帰りたいような顔をしていた。

親が騒ぎ出しそうな雰囲気を感じて、担任がすぐに学校生活の様子や今年度の授業内容について説明を始めた。保護者たちは、担任の指導や授業内容に大変満足しているので報告をおとなしく聞いている。「曲者」保護者も「うちのクラスの担任は素晴らしいわ～、本当にラッキー！」と他のクラスのお母さんに自慢していた。確かにこちらでは教師によって授業内容がかなり違い、また教師のレベルもバラバラである。もちろん学習指導要項等はあるのだがイタリアのこと、個々の捕らえ方がかなり反映された授業内容になる。

一通り説明が終わり、担任が欠席の副担任に代わってイタリア語の授業について説明し出した途端に「曲者」たちがすぐに意見を出した。最近、イタリアも晩婚・高齢出産が増えており（私のだが）小学三年生の親といっても年齢が高い。プライドが高くややこしい年代である40代半ば～50代の女性が多いので、本当に話がこじれるのである。「ラウラ先生は若くて初めてのクラスなので授業内容も楽しく簡単なものにしてほしいんですけど、あまりにも進み方が遅すぎませんか？それに内容が幼稚すぎだと思います」。幼稚…辛辣である。ラウラ先生はイラスト入りのプリントなどをよく使い、遊びの要素を取り入れ、楽しみながら憶えるように工夫していると思うのだが、それが気に入らないらしい。確かに書き取りなどを延々とやらせれば見た目には授業は進んでいるように思えるだろうが、子供たちには覚えきれないものではない。「ラウラ先生は学習指導要項に従ってきちんとカリキュラムを組んで進めています。またこのクラスの子供たちにあつた授業内容にし、適切な教材を使っています。私は問題ないと思っています」と担任はきっぱりと言った。すると、「Bクラスのイタリア語の進み方はずいぶん早いし、文法もたくさんやっています。それに比べてこちらはかなり遅れているように思いますけど。もっと宿題も出してほしいくらいです」と鬼のBクラスを引き合いに出してきた。あんたね…じゃあ、Bクラスに移りなはれ。鬼の指導で何時間も書き取りして山盛りの宿題をこなしたら、そりゃ早く進みますわ。こういう親はBクラスに行ったら「先生！厳しすぎます！！」とかすぐに言うんだろうなあ。

また別の親が「まあ、子供は喜んで授業を受け

ているみたいですけどね。ラウラ先生はおしゃれだって娘が言っていました。この前、長い爪に紫のマニキュア塗ってましたねえー」と嫌味をちくりと言った。日本ではマニキュアや長い爪をした先生はいないが、イタリアではマニキュアをした教師は多いし、親もあまり気にしていない。担任も「とにかくラウラ先生に文句を言いたいんですね、はいはい」といった感じで聞いている。



【Bクラスのイタリア語のノート】

その時、ドアを勢いよく開けて一人のお母さんが教室に入ってきた。その姿を見て度肝を抜かれた。胸のあいた黒いピチピチのワンピースに、大きいハート型の模様がついた黒の網タイツを履いている。場末の snacks のママが小学校の教室に入ってきたかと思った。彼女は40代後半で、なんと公立小学校の先生である。世も末とはこのことである。「学校が終わって急いできたけど、遅れちゃったわあ～！ Scusate!」態度も喋り方も全く教師に見えない。唯一「う～ん、教師と言われれば、教師なのかも・・・」と思わせるただ一つの要素は眼鏡だけである。いつも全く教師には見えない格好をしているが、今日のハート柄網タイツはまた強

烈である。この格好で小学生の前で授業してるんや、ラウラ先生のマニキュアどころの話じゃないで・・・。「曲者」たちは「Ciao ～」とか「授業終わってすぐなのね、大変よね～」とか普通に挨拶している。このお母さんが自分たちのクラスの担任だったら顔色変えてすぐに追い出すのだろうが、よその子の担任なので関係ないのである。場末ママ教師は椅子にドカッと座るとぶっとい足をパンツが見えそうなくらい上げて足を組んだ。

彼女の登場で話題を変えやすい状況になり、担任は引き続き授業の予定などを説明し、ラウラ先生に今回の保護者からの意見を伝え、担任もイタリア語の授業構成に一層関わるということで、保護者たちも納得した。

「さて、最後に嬉しいお知らせです。今年からようやくコロナウィルス感染防止対策の規制がなくなり、校外学習や見学会が再開されます。音楽鑑賞、美術館や科学館などに行く予定です」と担任が言うと、この朗報に保護者たちも「ああ、やっと行けるんですね！」「Evviva!!」と歓声を上げた。子供たちはずっと心待ちにしていたのでどんなに喜ぶことだろう。

「子供たちはこの2年間、マスク着用やソーシャルディスタンスなど、窮屈な学校生活の中で本当に頑張ってきました。たくさんのスキップや経験、刺激を必要とする年齢なのに、私たち教師は抱きしめてあげることもできませんでした。ですが子供たちは強く、そして明るさを失いませんでした。子供たちを誇りに思います。この子たちのために私たちはより協力しあい、残りの学校生活を楽しく美しいものにさせましょう」。担任の先生の言葉に保護者たちも深く頷いた。

当たり前の学校生活が入学当初から送れなかった子供たち。また、そんな子供たちを見て、親や先生たちは、どうにもできないもどかしさに苛立ち、そして心を痛めてきた。今、ようやく子供たちが願っていた学校生活が戻り、楽しそうな笑顔が戻ってきた。

この穏やかな学校生活が、今後も続いていくことを心から祈るばかりである。

(元当館語学受講生)

わたしとロダリー⑭

イタリア語のネコはミャゴる

竹田 理乃

話題がぱっと思い浮かばない。ここ数ヶ月、はっきりなしにイタリア語を聴いていた気がするんだけど。首を傾げてイタリア語の主な供給源であるスマホを開いてみたところ、動画配信アプリ Amazon プライムの閲覧履歴に答えがありました。ここ数ヶ月、J.R.R.トールキンの小説『指輪物語』を下敷きにして制作され、現在シーズン 1 が配信中となっているドラマ『力の指輪』の全 8 話を、英語とイタリア語の音声、英語とイタリア語と日本語の字幕を切り替えながら、延々とリピート再生して過ごすのに忙しくて、現実世界を留守にしていたのが原因です。



【『力の指輪』】

出典：<https://www.amazon.com/Lord-Rings-Power-Season/dp/B09QH98YG1>

最近、Amazon スタジオが制作するドラマには、ほかの言語で撮られた作品にもイタリア語の音声と字幕がつくことが増えました。さらにイタリアの Amazon スタジオが制作した番組まで配信していただけるようになってきて、感謝することしきりです。初級クラス時代からの恩師に「日常のイタリア語を教科書だけで学ぶことはできないから、イタ

リアのテレビドラマを視聴しなさい」とご指導をいただいていたものの、当時はケーブルテレビで放映されていた『モンタルバーノ シチリアの人情刑事』くらいしか手に届くところに見当たらず、猛スピードのシチリアーノに翻弄されては自信を喪失していたものです。今年の夏休みをぜんぶ突っ込んで視聴した『アーチェの物語』にも猛スピードのカラブレゼで話すキャラクターがたくさん登場しましたが、こちらはイタリアーノ字幕をつけられるので「今のやつは聞き取れなくてもさほど落ち込まなくてよさそう」とわかるため、心穏やかにいられました。



【『アーチェの物語 (BANG BANG BABY)』】

出典：<https://www.amazon.com/Bang-Baby-Season-1/dp/B09VSXCD94>

日常のイタリア語を求めてドラマを探そうとする人物に、トールキンの創作したエルフ語やドワーフ語の混じる『力の指輪』を紹介するのはトンチンカンなようにも思えますが、私のように『指輪物語』とその関連書籍を邦訳で読み漁ってきたファンタジー好きには、むしろシチリアーノやカラブレゼが混ざるよりも、日常的に触れる表現が多く含まれている気がします。それに、イタリアの本好きと友だちになってお互いに『指輪物語』のファンだと判明したとき、たとえば「ガラドリエル」という人名のどこにアクセントを置いて発音すれば通じやすいのか知っておいた方がスムーズに盛り上げられるでしょう。

*

そういえば最近、ロダリーの小説 “*Gelsomino nel paese dei bugiardi*” がついに再邦訳されたと聞いて、山田香苗先生の『うそつき王国とジェルソミーノ』を買いに書店へ駆け込み、帰宅と同時に一気に読みして訳者紹介まで駆け抜けたところ、山

田先生が『モンタルバーノ』と『いつだってやめられる 10 人の怒れる教授たち』の翻訳に携わっていらしたことを知りました。映画『いつだってやめられる』は、世知辛い理由からどうにもやっていけなくなった高学歴低収入の天才が徒党を組み、各々の専門性を活かして人生の一発逆転を狙うクライムコメディ作品です。愉快なのでけらけら笑えますが、冷静になって内容をふり返ると心がちよつと重くなります。

すばらしい個性を持つ人物が、それを活かさずに燻っているのは口惜しいことです。この度、新しい翻訳と装丁で再登場してくれたジェルソミーノもまた、よく通る大きな声という個性を封じられた経験のあるキャラクターでした。ハミングまでもが広く遠く響き渡る健やかな声を活かし、やがてはテノール歌手としての世界的な名声を得るジェルソミーノですが、規格外の音量が魅力として受け入れてもらえる場所にたどり着くまでには、なかなか心細い思いをしていたようです。

教室でよくある発言するときの音量だけで黒板を粉々にしてしまい、自分の失敗に動揺して泣いてしまうジェルソミーノ少年を前にして、どんな言葉をかけてあげられるでしょうか。優しく頭に手をやって「今のところは、なるだけ声を出さないほうがいだろう」と柔らかく口を塞いでしまった先生よりも気の利いたことを言う自信なんてありません。かわいそうなジェルソミーノ、食事中のおしゃべりでコップを割ってしまうなんて。

ところが、おとなになったジェルソミーノが流れ着いた〈うそつき王国〉には、彼よりもっとおしゃべりに困る人々が暮らしていたことが明らかになります。本当のことを言えば罰金の支払いを求められるからです。私たちがパンと呼ぶ食品を手に入れるには、文房具屋の看板が出ているお店に入ってインクを注文しなくてははいけません。このシステムを理解したときのジェルソミーノのぎよつとした顔が目には浮かびます。

この法律を制定したのは、国家元首であるジャコモモーネー世という紳士です。うそつき王国で〈紳士〉とされるなら、私たちの呼び方では〈ごろつき〉あたりの表現がしっくりきそうです。実のところ、この王国を掌握するまでは海賊として暴れまわっていた過去があります。この法律があれば、誰もジ

ャコモモーネー世の素性に言及しようという気を起こしませんし、散歩の途中で「きれいなバラだなあ！」と歎息しただけで、都合の悪い人物を刑務所に放り込んでしまえます。声がよく通るうえに、うそをつく習慣のないジェルソミーノとは相性の悪い法律ですね。ここで、彼に輪をかけてこの法律と相性が悪いキャラクターが登場するのだから、作者であるロダリーの想像力には驚かされます。

そのキャラクターは三本足のネコで、名前をゾッピーノといいます。ある女の子が学校から持ち出した赤いチョークで描いた落書きだったのですが、めでたく実体を得てジェルソミーノと友だちになりました。そして、なんと「ミャオ」と鳴きます。困りますね。うそつき王国のネコは「ワン」と吠えなくては法律違反になるのに。彼はワンワンと吠えていたネコたちを扇動してミャオミャオとミャゴらせることで奇妙な秩序をかき乱し、またジャコモモーネー世の真実を暴いてうそつき王国を転覆へ追い込んでいくのですが、その顛末は各々の読書体験を損なわないように伏せておきます。

「ミャオ、ミャオ」ゾッピーノはその気にさせようとミャゴってみせます。「やっごらん、兄弟たち、ネコの鳴き方を練習するんだ。」

ロモレッタはおなかをかかえて笑っていましたが、そのうちに一番小さいネコがおそろおそろミャーとミャゴリはじめました。二番目のネコがそれをまねて、ちよつと大きな声でミャゴリ、三番目のネコがそれに加わりました。ゾッピーノのひととき大きなミャーという指揮に合わせ、たちまち七匹のネコのミャゴリ声は七つのバイオリンのように響き合いました。

「みんな、どんな気分？」

「ほんとに甘いや！」

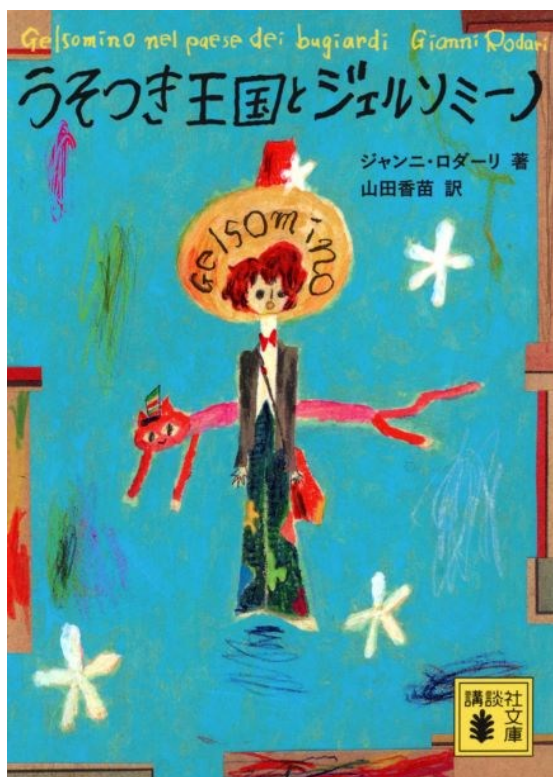
「砂糖入りのミルクよりもずっと！」

「いっけない」ロモレッタがハツとして叫びました。「パンノッキアおばさんが起きちゃう。ゾッピーノ、おいで！」

『うそつき王国とジェルソミーノ』ジャンニ・ロダリー、
山田香苗訳、講談社文庫より

日本語ではイヌもネコも〈鳴く〉ものですが、イタリア語ではイヌは〈abbaiare〉、ネコは

〈miagolare〉と違った動詞を使って鳴きます。直接法現在の〈miagolare〉を無理やりカタカナ書きにしてみると、一人称単数から順に「ミャーゴロ、ミャーゴリ、ミャーゴラ、ミャゴリアーモ、ミャゴラーテ、ミャーゴラノ」といったところでしょうか。動詞の活用を練習しただけなのに、ミャゴミャゴと唱えているとなんだか愉快な気分になってきます。私がひとりぼっちで原文を読んでいけば、おもしろみもなく「鳴く」だけだったかも知れない七匹のネコたちに、日本語のなかでも「ミャゴって」もらえた翻訳の楽しさが嬉しくて、この表現を選んでくださった山田先生に「このくだり、声に出して読みました」と握手を求めてみたくくなりました。同作品を1985年に『うそつき国のジェルソミーノ』の邦題で翻訳されていた安藤美紀夫先生が、ここでどんな表現を選ばれていたのかも気になります。



【『うそつき王国とジェルソミーノ』】

出典：<https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000367072>

私もイタリア語で本を読みたくて学ぶ身ではありますが、先達の魅力的な翻訳が出ているというのはありがたいことです。一言一句を原文でたど

る喜びもある一方、日本語を母語として育った私にとって、おはなしを追う喜びだけに没頭させてくれる言語は、今のところ日本語しかありません。その日本語のなかに原文のおもしろみが反映されていると気づけたならば、その度に手を打って喜べます。

この表現、あっちの言語ではどんな風に訳しているのだろうと、動画配信アプリの言語選択機能をタップして時間を溶かしている自分の姿を思い描くと格好がついていませんが、多言語翻訳で遊べるようになったのは成長の証しということにしておけば、そろそろ気になるスマホ依存の疑いを有耶無耶にできないかなあ。

＜参考文献＞

『うそつき王国とジェルソミーノ』ジャンニ・ロダーリ、山田香苗訳、講談社文庫、2022
『力の指輪』原作：J.R.R.トールキン、企画：J.D.ペイン、パトリック・マッケン、Amazon Studios、2022
『アリーチェの物語』ミケーレ・アルハイク他監督、Amazon Studios、2022

(元当館語学講師)

＜オンラインレッスン随時受付中＞

zoom を使用したマンツーマン(1対1)のオンラインレッスン。多くの方にご利用頂いています。



編集・発行 / (公財) 日本イタリア会館
〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町4
TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357
E-mail: centro@italiakaikan.jp
URL: <http://italiakaikan.jp/>